

新型コロナウイルス感染症から考えよう！！

ま と め

いちもり まこと
一盛 真 (大東文化大学)

1 新型コロナウイルス感染症はウイルスとの戦いであって人と人との戦いではありません

○未知なもの、見えないものに対する不安や恐れは、過剰な反応につながるものです。だからこそ過剰な反応に気をつけましょう。

○新型コロナウイルスに感染した方というのは我々が守るべき存在です。

2 この新型コロナウイルス感染症に関わる人権問題は他の多くの人権問題と重なっています

○ハンセン病に対する誤った国の政策により、多くの人権侵害があったことを忘れてはいけません。

○ハンセン病に対する我々のまなざしが、多くの人権侵害を生みだしてしまいました。更には関東大震災のおこりに、在日朝鮮人の方たちに対する人権侵害。そのような過去の過ちを我々どのように考えるのか、それが問われています。

○まなざしのその先にいる「人々の気持ち」「人々の生活」これらを壊してはいけません。

いつ我々がそのような立場に立っても気持ちよく生きていける社会を作っていきます。

○今私たちは、人権学習の必要性が問われています。新型コロナウイルス感染症と向き合い、一緒に人権学習をしていきましょう。

大東文化大学 文学部 教育学科 教授 一盛 真
～プロフィール～

2000年鳥取大学教育地域科学部赴任。2017年から大東文化大学文学部教員。鳥取市在住。

専門は教育学、思想史。『日本近代教育と差別一部落問題の教育史的研究』『札幌市史 第8巻 I 統計編』『Female Well-Being』『戦後日本の教育と教育学』『アイヌ民族・先住民教育の現在』『日本植民地教育を問う』(全て共著)など。コロナ問題については「平和と国際連帯分科会基調報告 新型コロナウイルスと構造的暴力」(DVD版『教育のつどいレポート集2020』がある。最近の論稿は、「生きるに値しない命—優生学と日本社会」(『教育』2020年12月号)。

新型コロナウイルス感染症に負けない！ 3町（湯梨浜・北栄・琴浦）人権尊重宣言！

1、私たちは感染者とその関係者の人たちを非難しません

- 感染はいつでも、だれにでも起こる可能性があります。感染者は非難される対象ではなく、守られるべき存在です。
- 感染された方やその家族、知人、職場、医療従事者等への偏見や差別、誹謗中傷はあってはなりません。

2、私たちはうわさやデマに惑わされません

- SNSや人のうわさは本当に正しいのでしょうか？不確かな情報やデマに惑わされることなく、正しい情報に基づいて冷静に行動しましょう。
- 自分自身が間違った情報を流してしまわないよう、もう一度、情報との接し方を考えてみましょう。

3、私たちは一人ひとりの人権を尊重します

- 私たちが克服すべき相手は、人ではなく、新型コロナウイルスです。
- コロナ禍では不安や恐れから人を責めたり、人との関わりを過度に避けようとしたりすることがあるかもしれません。このようなときだからこそ自分も相手も大切に、一人ひとりの『人権』を大切にしていきましょう。

～ 人 権 尊 重 の ま ち ～



湯梨浜町

湯梨浜町人権教育推進協議会



北栄町

北栄町人権教育・啓発推進協議会



琴浦町

琴浦町人権・同和教育推進協議会